



新春のご挨拶



院長
田辺 知宏



明けましておめでとうございます。

2012年はロンドンオリンピックがあり、日本選手の活躍によって日本全体が大きな感動に包まれ、私も含め国民の皆さまが一体感を持てた年でした。また、世紀の天体ショーである金環日食もあつたりと、イベントが目白押しでわくわくした年でもありました。

当院では、電子カルテ導入を2012年6月から行い、当初皆様にご迷惑をかけましたが、迅速に安心安全な医療をご提供できるよう大変革を行いました。

今年2013年も当院は更なる医療の質向上に向け、患者さんの視点に立った良質な医療の実践を進めるべく、11月には公益財団法人日本医療機能評価の審査を受ける予定です。患者さんにより良い医療をご提供出来るように、いつまでも活発にいろいろなことを吸収していきたいと職員一同思っています。

今年も当院をどうぞよろしくお願いいたします。

当院の肥満外来について

内科医
相川 秀彦



体重を落とすことは難しいことではありません。

食事を減らして、運動を増やせば確実に痩せられます。難しいのは、その状態を維持できることです。痩せようと思って、食事を減らすとすぐに体重は減り始めます。最初は体重が減るのが面白く、頑張ることが出来ますが、数週間もすると辛くなり、ついつい食べてしまう。気がつくといつのまにか以前と同じくらい、あるいはもっと食べるようになってしまい、体重がかえって増えてしまう。これをリバウンドといいます。こんな思いはダイエットを行った方なら誰もが経験していることではないでしょうか？

当院の肥満外来では、このリバウンドをいかに防ぐかを一番の目標にしています。このため急激なダイエットを避け、またダイエットを長続きさせるためにはどうしたら良いかを一緒に考えます。当院での肥満外来は大分大学が中心となって研究している「行動療法」という手法を用います。具体的には体重を毎日測っていただき、その結果からどうすれば体重を減らせるかを考える。ただそれだけです。あまりにも簡単で、本当にそれだけで痩せられるのか疑問に思う方もいらっしゃいますが、痩せられる方もいます。残念ながら今のところ肥満の特効薬や万人が痩せられるダイエット法はありません。行動療法も全ての方に効果があるわけではなく痩せられるというお約束はできません。この手法でうまく体重を落とせた方もいらっしゃいますが、うまくいかない方が多いことも事実です。ただしそこでうまくいかない場合は、どこに問題があるのかを考えていくことが大事です。

また、肥満外来は美容目的の外来ではありません。健康に支障が出ないような体重を目標とします。健康状態を改善するためにはどの程度体重を減らせば良いのかを考えます。理想体重にする必要はありません。一般的には、現在の体重の5～10%痩せれば良いといわれています。どうでしょうか。この程度の数字なら達成できそうな気がしませんか？

肥満外来(金曜日14:00～17:00予約制)に興味のある方、またやってみみたい方は内科までお問い合わせ下さい。

ポリオについて



小児科医 真野 智子

2012年9月から、今までの飲む生ワクチンに替わり、より安全性の高い不活性ワクチン接種が始まりました。不活性ポリオワクチンは、1982年フランスで承認以降、1990年アメリカの承認などを経て、2012年2月現在、世界86ヶ国で承認されて接種されているワクチンです。

ポリオという病気は、ポリオウィルスによる感染症です。小児麻痺とも呼ばれています。

ポリオウィルスに感染しても多くの場合目立った症状は現れませんが、ごく稀に手足の麻痺が一生残ったり、重症の場合は死亡することもある怖い病気です。

この不活性ワクチンは、注射になりますので、今までの注射に加えて1つ注射が増えますが、怖いポリオを防ぐ大切なワクチンなので忘れずに接種しましょう。今まで飲むポリオワクチンを何回しているかで注射のワクチンの回数が変わりますが、全部で3~4回注射します。1才までは予防注射が大変多いこともあり、当院でも同時接種も行っています。

なお2012年11月から、今までの三種混合ワクチンにポリオが加わった四種混合ワクチンが始まることが決まっていますが、当院ではワクチンの数が整い次第予約をお受けします。それまでは従来通り三種混合ワクチンと注射のポリオワクチンを続行します。年齢に達したお子さんは四種混合ワクチンを待つことなく接種されることをおすすめします。

詳しくは小児科までお問い合わせください。



小児に対するインフルエンザの注意点



今年もインフルエンザの流行時期がやってきました。小児のインフルエンザで特に気になるのは、高熱と意識障害や痙攣、異常行動が主な症状でもあるインフルエンザ脳症ではないでしょうか？子供が発熱でつらそうにしていれば、熱を下げてあげたいと思うのが親心だと思います。しかしインフルエンザに対して使用する解熱薬には注意が必要です。38度や39度を超えるような高熱のときには、小児にも、ある程度安心して使用できるアセトアミノフェンを使用します。しかし、ジクロフェナクナトリウム(ボルタレン)やメフェナム酸(ポンタール)、アスピリンなどは脳症を引き起こす可能性があります。同じような種類に分類されるNSAIDs(非ステロイド性抗炎症薬)と呼ばれる解熱鎮痛薬も避けるべきでしょう。これらの成分は市販の解熱薬や総合感冒薬などに良く使われているので、インフルエンザの季節に風邪のような症状が出てきたときには薬の使用に十分注意して下さい。

学校など教育機関への出席停止期間もよく質問を受ける項目ですが、学校保健法に「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日(幼児にあっては3日)を経過するまで」と出席停止期間の基準を定めています。ウィルスの排出期間の長さには個人差があり、解熱後も排出すると言われているため、咳などの症状が続いている場合にはマスクをするなど周囲への配慮が望まれます。

まだまだインフルエンザの季節も続きますので、十分に気をつけてお過ごしください。

薬剤科 二平 豊



アレルギーについて



増加傾向にあるアレルギーの病気。日本では国民の30%以上が何らかのアレルギーを持っていると言われています。

人のからだには、体外から入ってきた異物(抗原)を排除し、からだを守る「免疫機能」があります。しかし再び同じ異物(抗原)が入ってきたとき、免疫機能が過剰に反応してしまうことがあります。そして私たちのからだに悪影響を及ぼし、アレルギーとして様々な症状が表れてきます。このアレルギー反応をおこす原因物質は、ダニやカビ、花粉やタバコの煙、食べ物など、身近でよくありふれたものが多く、発症は生活環境や季節によっても様々です。

当院でもアレルギーの検査を行っております。血液検査によって様々なアレルギーの原因物質を調べることができます。自分が何のアレルギーを持っているかを知って予防することも大切です。

1月に入り寒さも厳しくなってきました。ファンヒーターなどの暖房器具を使用する際には、溜まった埃やダニ、カビなどのアレルギーの原因物質となるものをなるべく吸い込まないように、こまめに掃除をし換気をするように心掛けましょう。

検査科 飯塚 悠



2B病棟を紹介します



外科と整形外科の混合病棟で54床あり、主に手術を目的とされる患者様が多く入院されています。私たちは「**患者様中心の看護が提供出来る**」という病棟目標を掲げ、安心して入院生活が送れるように術前後のサポートに力を入れています。術前オリエンテーションの実施・OPE室との連携を図るなど具体的な説明を行い、患者様の不安を表出しやすい場を作っています。入院することで入院前のADL(日常生活動作)が低下しないよう、退院後の生活も視野に入れながら、患者様一人一人に合わせて術後は早期離床を進められるように心掛けて援助しています！

これからもより一層明るく笑顔いっぱいの病棟になるよう、スタッフ一丸となって努力していきますのでよろしくお願ひします。いつでも気軽にお声掛け下さい♪^^

看護師 奥山 真須美



私たちがお手伝いします

当院の診療統計データ(2012年4~9月)



外来患者数	321.1人 (1日平均)
1日平均入院患者数	171.6人 (1日平均)
救急患者数	91.2件 (月平均)
紹介件数	92件 (月平均)
全身麻酔術数	30.2件 (月平均)

訪問看護・居宅介護支援

《訪問看護》

看護師がご自宅に訪問し、療養上の世話(看護)や診療の補助等を行います。療養生活に不安のある方を専門家の目で見守り、ご本人及び介護者の方の援助を行います。健康状態の観察や助言、清拭や洗髪、入浴介助などを行います。

《居宅介護支援》

ご自宅での生活に必要な介護サービスの利用に関して、相談及びケアプランの作成を行います。ご本人の希望を取り入れ、また、ご家族の介護負担が少しでも軽減されるように支援していきます。

ケアプランの作成や見直し、介護サービス事業者との連絡調整などを行います。

※ご利用やご相談などお気軽にお問い合わせください。

東川口訪問看護ステーション
TEL 048-297-6873

訪問リハビリ

リハビリスタッフがご自宅に訪問し、実生活の中での動作獲得練習や、介助量軽減のアドバイスを行います。

- ・基本動作・移動動作・日常生活上の動作獲得に向けた関節運動や筋力トレーニング、動作練習など
- ・介助する方に対する介助方法のアドバイス
- ・トイレや浴室の改修、手すりや段差解消などのアドバイス
- ・身体に合った車椅子や杖などの福祉用具のアドバイス

※ご利用方法など分らない事がありましたら、リハビリテーション科までお気軽にお問い合わせください。

リハビリテーション科

脳ドック

《脳ドック》

・Aコース(28,000円)

脳MRI・MRA、血液検査、心電図、尿検査、問診等

・Bコース(21,000円)

脳MRI・MRA、頸部MRA、問診のみ

※総合受付にてご予約を受け付けています。なお詳細、ご不明な点等につきましては、総合受付にお問い合わせ、またはパンフレットをご参照ください。

編集後記

明けましておめでとうございます。

電子カルテ導入から早8ヶ月が経ちました。本年も皆様のお役に立てるようさらに一皮剥けるべく、より一層努力していきます。

へび年だけに・・・

お後が宜しいようで。。

地域活動委員会 安田 一平

内科・外科・消化器外科・整形外科・脳神経外科・小児科・皮膚科・耳鼻咽喉科・循環器科・泌尿器科・リハビリテーション科



上尾中央医科グループ

医療法人社団協友会 東川口病院

携帯電話サイト・QRコードから簡単アクセス！是非ご利用ください。

〒333-0801

埼玉県川口市東川口2-10-8

TEL 048-295-1000

FAX 048-295-5501

http://www.e-kawaguchi-hp.jp



※東川口病院へのアクセス方法※

・JR武蔵野線東川口駅下車 徒歩5分

・埼玉高速鉄道(南北線直通)東川口駅下車 徒歩5分

